

## 「神の壮大な」計画

(□→マ  
11  
•  
11  
} 24  
)

## 一、神の壮大な計画

使徒パウロは、「私には大きな悲しみがあり、私の心には絶えず痛みがあります。私は、自分の兄弟たち、肉による自分の同胞のためなら、私自身がキリストから引き離されて、のろわれた者となつてもよいとさえ思っています」（ローマ9・2～3）と、自分の気持ちを吐露しています。おそらく、同胞が、すなわちイスラエル人がキリストを退けたまま救われていないという痛みを引きずり、また自分の身内も救われていないう現実を思つて語つたのだと思います。一方で、ローマに興された主イエス・キリストを信じる群々は、大多数の異邦人キリスト者と、非常に少ないユダヤ人キリスト者から成つていたようです。異邦人キリスト者たちは、神はユダヤ人を退け、自分たちに目を留められたと思い、誇つていた可能性があります。18節、19節で、こう語つているからです。「あなたはその枝に対して誇つてはいけません。たとえ誇るとしても、あなたが根を支えているのではなく、根があなたを支えているのです。するど、あなたは「枝が折られたのは、私が接ぎ木されるためだった」と言うでし

「うん。私はここに人間の性である罪の性質が頭をもたげていると思いました。イスラエルは、自分たちが神に選ばれたと知つて——その通りなのですが——思い上がつていきました。では、ユダヤ人以外はどうだったのかと言えば、皆同じです。ですが神は、人がはかない存在であることを存じて、大きな善い計画を持つておられ、憐れみの御手を伸べておられます。それを知るためには、神が語られたことばを基に、組み立てて行くことが求められます。パウロは、神には壮大なご計画があると受け止めて語っていますが、自分勝手に語っているではありません。その出處は、旧約聖書です。11節をご覧ください。『それでは尋ねますが、彼らがつまずいたのは倒れるためでしょ？』が決してそんなことはありません。かえって、彼らの背きによって、救いが異邦人に及び、イスラエルにねたみを起させました。』とあります。『彼ら』とは、イスラエルのことです。イスラエルが神のご計画であるキリストにつまずいたことによって、キリストを信じることによる救いが異邦人に向かつたというのです。それによって、『イスラエルにねたみを起させました』というのです。これは、パウロが思いついて教えを展開したのではありません。もしそうであつたら『パウロ教』になってしまいますが、元は、申命記32章の「モ

一ノ九  
畫を照ご、  
謙遜に

わちイスラエル人がキリストを退けたまま救われていないう痛みを引きずり、また自分の身内も救われていないう現実を思つて語ったのだと思ひます。

受け止めて語っていますが、自分勝手に語っているのではありません。その出處は、旧約聖書です。11節をこ覧ください。〈それでは尋ねますが、彼らがつまずいたのは倒れるためでしょうか

たみが起<sup>こ</sup>り、時<sup>が</sup>来<sup>れば</sup>イ<sup>ス</sup>ラエ<sup>ル</sup>  
はキリストを信<sup>じ</sup>て救<sup>わ</sup>れると。

によつて、根から豊かな養分を受けて  
いるのだから、誇つてはいけないと。そ  
れにしても、人は高慢になりやすい性  
質を持つっています。19節です。「すると、  
あなたは「枝が折られたのは、私が接さ  
木されるためだつた」と言うでしょ  
う。」と語っています。パウロはローマ  
に興された教会の会衆には会つていな  
いものの、おおよそ異邦人キリスト者  
が考へてゐることが分かつたのであり  
ましよう。

17 節、18 節をじ覽ください。〈枝の中のいくつかが折られ、野生のオリーブであるあなたがその枝の間に接ぎ木され、そのオリーブの根から豊かな養分をともに受けているのなら、あなたはその枝に対して誇ってはいけません。たとえ誇るとしても、あなたが根を支えているのではなく、根があなたを支えているのです。〉と、パウロは異邦人キリスト者のことを、野生のオリーブの枝にたとえています。一方でイスラエルを、栽培されたオリーブの木にたとえて語っています。異邦人キリスト者は、イスラエルに接ぎ木されること

自己中心的な人間で、高慢になりやす  
い人間である」と言い聞かせるしかな  
いと。「こんな」とを言いますと、「いい  
え、私は何もできない人間で、しばしば  
卑屈になっていますから、高慢になる  
ことはありません」と、思う方がおられ  
ることであります。ですが、卑屈は  
高慢の裏返しのようなものですから、  
根っこは同じです。人は自分中心的で、  
高慢に、あるいは卑屈になりやすいこ  
とを認めて、主の憐れみと赦しにすが  
つて生きていったら、少しはマシにな  
るかも知れません。